

2013年度昭和大学英语

解答

1

1 D

2 A

3 C

4 A

5 E

6 B

7 C

8 D

9 A

10 C

2

1 may

2 to

3 than

4 of

5 twice

6 before

7 myself

8 on

9 vividly

10 if

3

1. (3)grow

2. (3)however

3. (1)the leading

4. (3)apologize for

5. (3)pulled out

4

1 C

2 F

3 G

4 B

5 D

5

1. (A)

2. (3>true

(5) means

3. 依存症の研究者を長く悩ませてきた、問題のある薬物依存やギャンブル依存などの要因が衝動的行動やうつ症状を導くのか、それとも憂鬱な気分と衝動的行動が依存的状況をもたらすのかという問題。(89字)

4. 全訳下線部参照

5. (C), (D), (H)

1

1 D

「もし彼女が私のアドバイスを聞いていたなら、彼女は今頃もっとしあわせだったのに。しかし、彼女は私の言うことを聞こうとはしなかった」If 節は仮定法過去完了であるが、帰結節は仮定法過去のパターンである。now とついているのがポイントである。If S had done~, S would do~. 「もしあの時~していたなら、今頃~なのに」という意味になる。

2 A

「私は彼らが夜勤を交代ですると聞いた」take turns「交代でする」の意味を選ぶ。他の選択肢をみると take place「行われる、開催される、起こる」、take time「時間がかかる、時

間を取る」, **take part in** 「参加する」, **take round** 「案内する, つれ回る」という意味である。

3 C

「どんなことがあろうとも, 彼はみんなを信頼している」 **for better or (for) worse** 「良いときも悪いときも」というフレーズである。

4 A

① 「彼はロサンゼルス経由で帰った」 **by way of(=via)** 「～を経由して」となる。

5 E

① 「暑い日には, 一杯の冷たいレモネードに勝るものはない」 **There is nothing like** 「～のようなものはない, ～は最高である」という意味である。

6 B

「あなたが頼まなければ, 誰もあなたを助けないだろう」 **unless** 「～しない限り, もし～しなければ」という接続詞であり, **If ~not** と同じである。

7 C

「その仕事の3分の2ぐらいは終わっていると思う」 **two thirds of** 「～の3分の2」 **of** 以下
の名詞が単数か複数かによって, 動詞が異なる。**of** 以下が **the work** となっているので主
語は単数として扱われているため **have been** は不可となる。

8 D

「私は決してそこの再び戻ることはないでしょう」 **under no circumstances** 「決して～ない」という否定を表す副詞句が文頭にきているので倒置になる。**ever** は通例, 動詞の前にくる。

9 A

「私は, この本に至るまでの原稿の様々な部分において, 意見を与えてくれた同僚たちや学生たちの惜しみなさにとっても感謝をしています」 **lead to** 「(結果的に) ～になる, 至る」という意味で, 主語に原因が示され, **to** 以下が結果となる。**generosity** 「惜しみなさ, 寛大さ」, **manuscript** 「原稿」という意味である。

10 C

① 「医学的なりサーチによれば、ステロイドのユーザーは、深刻さにおいて肝臓がんからニキビまで 70 を超える副作用を受けることがわかる」 liver cancer と acne があるので重度なものから軽度のものが示されているのでその尺度を表す名詞 severity 「深刻さ」が入る。subject oneself to 「～に身をさらす」、priority 「優先するもの」、sensitivity 「繊細な感受性」、quantity 「量」、evidence 「証拠」という意味である。

2

1. 1. may 2. to

It is said that aspirin may help to prevent stroke. It is said that 「～といわれている」という意味である。

2. 3. than 4. of

It is estimated that more than two thousand people die of tuberculosis every year in Japan. 通例, 病气, 餓え, 老齡の場合 die of 「～が原因で死ぬ」を使う。外傷, 不注意の場合は die from を用いることが多いが of も使われる。

3. 5. twice 6. before

I think you should think twice before quitting your job. think twice, think twice about 「～を考え直す」という意味である。quit は I quit my job. 「仕事を辞めた」というように、口語でよく使われる。

4. 7. myself 8. on

I threw myself into the German classes so that I would be able to carry on a simple conversation within a few months. throw oneself into 「～に没頭する, 打ち込む, 身を投じる」, so that S will do 「～するために」という目的を表す。

5. 9. vividly 10. if

He described his adventures as vividly as if they had happened yesterday. as if 節は過去のことを実際起きたことと違うことを妄想している仮定法過去完了になっている。as (形容詞・副詞) as if S had done yesterday 「まるで昨日～したかのように～ (形容詞・副詞)」という意味になる。

3

1. (3) grow

「パセリは葉っぱが巻き上がっているハーブで、育てることが非常に簡単で、よく食べ物の飾りとして使われる」 grow 「～を栽培する、育てる」と自動詞の grow up 「成長する」を区別する問題である。

2. (3) however

「どんなに小さくても、私は私自身の部屋が欲しい」 small は形容詞なので however small S may be 「S がどれほど小さくても」という意味である。whatever は名詞的または形容詞的に用いられるが、whatever+形容詞のように副詞的には用いられない。さらに No matter how small it may be. と書き換えられる。

3. (1) the leading

「がん、心臓病および脳卒の他に、肺炎もまた日本人の間で、主な死因の一つになっていることを私は知らなかった」 leading cause 「主要な要因」、stroke 「脳卒中」という意味である。

4. (3) apologize for

「フライトは、この台風によって遅れることもあるかもしれません。そのためのご迷惑をおかけしますことをお詫び申し上げます」 apologize (to A) for B 「B のことで A に詫びる、謝る、陳謝する」という意味である。

5. (3) pulled out

「歯医者は私に、もっと早くに親知らずを抜いておくべきだったのと言った」 should have done 「～すべきだったのに」と should not have done 「～しなければよかったのに」は、後悔するときに使うセンテンスとして覚えておくといよい。have A done 「A が～されるようにする、A を～してもらう」という使役動詞の have である。例文を挙げると You had your hair cut. 「髪切ったね」、I have a tooth extracted. 「歯を抜いてもらう」のように用いる。なお wisdom tooth は「親知らず」のことである。

4

和訳

薬局にいる薬剤師 (P) : おはようございます。いらっしゃいませ。

客 (C) : あの、体重を減らすためのサプリメントを飲みたいのですが・・・。(1) みんなそれは「自然」と言うので、私は安全だと思っているのですが。そう思いませんか。

(P) : そうですか。わかりませんが……。 (2) 実際「自然」という言葉はいつも「安全」という意味にはなりません。

(C) : 本当ですか。それは知りませんでした。では漢方薬はどうでしょう。安全ですか。

(P) : いいえ、それほどではありません。 (3) 今、薬は飲んでいますか。

(C) : はい。担当医が私にこの錠剤を 1 日 3 回飲むように言いました。私は今のどが痛いので。(その客はその薬を薬剤師に見せる)

(P) : そうですね、処方薬をお飲みのときは他の薬を飲むのは気をつけたほうがいいですよ。

(C) : (4) では、どうしたらよいのでしょうか。

(P) : (5) サプリメントを飲む前に、かかりつけのお医者さんに相談したらいかがですか。私は、もし本当に体重を減らし健康を保ちたいのであれば、バランスのとれた食事とある程度の規則的な運動があなたにとってよいと思います。

<選択肢>

- A. 「約 1 ヶ月間、治療を受けています」
- B. 「そうですね、処方薬をお飲みのときは他の薬を飲むのを気をつけたほうがいいですよ」
- C. 「みんなサプリメントは『自然』のものと言うので、私は安全だと思うのですが」
- D. 「サプリメントを飲む前に、かかりつけのお医者さんに相談したらどうですか」
- E. 「以前何かサプリメントのようなものを飲んだことがありますか」
- F. 「実際「自然」という言葉はいつも「安全」という意味にはなりません」
- G. 「今、薬は飲んでいますか」

1 C

その次に Don't you think so? 「そうは思いませんか」ときているので、何か意見を言ったことが推測できる。次の薬剤師のコメントも考慮に入れて C. 「みんなサプリメントは『自然』のものと言うので、私は安全だと思うのですが」が適切である。

2 F

Really? と次に客が驚きながら言っていることに注目すると、F. 「実際「自然」という言葉はいつも「安全」という意味にはなりません」が適切である。

3 G

次の客の発言において医者から 1 日 3 回飲むように言われている錠剤があることがわかるので G. 「今、薬は飲んでいますか」が適切である。

4 B

直前に書かれている括弧内の状況説明に注目すると（客が薬剤師に医師からもらった薬を見せる）と記されていて、その後のコメントに適切ものを選ぶ。B.「そうですね、処方薬をお飲みのときは他の薬を飲むのは気をつけたほうがいいですよ」である。

5 D

客が What should I do?と尋ねているので、D.「サプリメントを飲む前に、かかりつけのお医者さんに相談したらいかがですか」が適切である。その後薬剤師は自分の意見を添えている。

5

和訳

ニュージーランドで約 1000 人を対象に進行中の研究からのデータによると、3 歳における子供の行動が、彼らが 30 歳代になってからの問題のあるギャンブルやドラッグ依存といった依存行為（常習行為）に走る危険についていくらかの驚くべき手がかりを与えている。

その調査では、今までのところ、生まれてから 32 歳までの参加者の心理的、経済的、知的生活の足跡をたどってきており、1972 年 4 月から 1973 年 3 月の間にニュージーランドのダニーディンで生まれた子供たちのほぼ全てを含んでいる。

“サイコロジカル・サイエンス”に発表されたその新しい分析によると、3 歳で「制御困難」とみなされた子供たちは、21 歳と 32 歳でギャンブルに関する困った問題をもつ傾向が、精神的に安定した子供たちよりも 2 倍以上になりがちであることがわかった。その年（3 歳）でこの気質のタイプを示す子供たちの約 10 パーセントは、その気質には、急変しやすい感情、衝動的でわがままな行動、かなりハイレベルの否定的感情といった、自己制御の欠落が関わっている。

その関係は、IQ、性別、そして社会経済的地位のような要因を考慮した後でさえも当てはまっていた。そしてこれらの子供たちは、大人として評価されるようになったときでも疎外感に関しては高い数値を示し、高水準の否定的感情を表し続けた。彼らはまた彼らの同等な人たちと比べて、あまり良心的でなく、社会的に人と仲良くできにくい傾向があった。

ダニーディンプロジェクトのような長期的に渡る研究は、依存症のルーツを発見することに対して非常に重要である。依存症の研究者を長く悩ませてきた鍵となる大事な問題は、薬物依存やギャンブル依存のような要因が衝動的行動、そしてうつ状態を結果的にもたらすのか、あるいは低調な気分と衝動的行動を元々抱えている人が、依存的になってしまいやすいのか、ということである。

「この研究は鶏が先か卵が先かという問題を解きほぐすのに役立ちます。つまりどち

らが最初か、ということです」とミズーリ大学の心理学教授で、この研究の主執筆者であるウェンディ・スルツクは述べている。「この場合において、我々は制御困難型気質があらゆるギャンブルへの関わりよりも前にくるということがはっきりと証明してきた。これは問題のあるギャンブル（依存症）が作り出される理論を構築するとき、その問題の重要な一部なのです」

ハーバード・メディカルスクールの依存症部門のディレクターであるハワード・シャファーは問題のあるギャンブル（ギャンブル依存症）が専門であり、その研究には関わらなかったが、その研究を「その依存症の分野への重要な貢献」であると表現した。

「（長期に渡ってデータをとるような）縦断研究はほとんどありません。この研究はそのような縦断研究を提供することに加えて、ある低年齢のときにまでさかのぼって兆候を示すものを調べるチャンスを広げてくれます。この研究はまた、過度な病的なギャンブル行為の一因となる数多くの重要な非ギャンブル的な不確定要素の性質を明確にし始めているという点で重要なものといえます」とシャファーは言っている。

なぜ制御困難型気質が依存的行動に繋がるのか、研究者たちにはまだはっきりとわかっていない。この気質をもつ人の中には、ギャンブルをすれば高い水準の否定的感情から逃れることができるのでギャンブルを楽しむのかもしれない。またただ単に衝動の制御がうまくできなくてその危険性が高まってしまうのかもしれない人もいる。両方の要因が結びつくと、リスクは最大となるだろう。

スルツクはさらにいくつかの説明をしている。「1つの可能性であるが、自己制御困難とギャンブルや問題になるギャンブル依存症の両方に関連して、遺伝的要因があります。またもう1つの可能性として、感情および行動上の制御が効かない子供たちは、彼らをギャンブル行動へと導く他の制御困難な子供たちと仲間になって付き合う傾向があります」

いったんギャンブルの習慣をおぼえると、その人の感情および行動上の制御がききにくいという気質が、集まってギャンブルをしている間にコントロールできなくなり、より悪い決定をしてしまう、そしてさらにそれは、ギャンブル依存症を導く可能性がある、とスルツクは言う。

ギャンブルは制御困難気質と関連する唯一のリスクではない。ダニーディンの住民による初期の分析では、3歳から5歳の最も制御困難的行動をとる子供たちは、自己制御の最も高い水準を示した子供たちと比較し、10代後半の頃に複数の薬物依存症となる危険性が3倍以上になることがわかった。

その発見は、人によっては生まれつき他の人々よりも依存症になりやすいという考えを強調している。そして依存症にかかりやすいのは、彼らがより多くの楽しみを求めるからでなく、それ以前に負の感情が過度に存在しており、それらの感情を制御する能力を有していないからである。

実際、カリフォルニア州における以前の縦断研究では、同じ種類の関連性が暗示され

ていて、衝動の調節ができにくくて、より高水準の精神的苦痛をもっている未就学児は、後になって薬物問題を引き起こしてしまう傾向が強かった、ということがわかった。

ニュージーランドとカリフォルニアの研究は、依存症は単に薬物の使用やギャンブルのような行為の経験の結果ではなく、むしろ実際に依存症になっていく少数の人々は、圧倒的にあらかじめ依存している問題を有している、という増えてきている科学的な証拠を付け加えている。依存症になる人々の少なくとも半数は、うつや不安障害といった別の精神的な疾患をもっていて、これらのデータではそのような疾患やそれらになりやすい気質が依存症の重要な要因であることを暗示している。

これは、ギャンブルや薬物問題の治療は単に中毒行動に集中するわけにはいかないことを意味している。「臨床医は病的なギャンブルの背後にある数多くの問題の全領域に取り組まなければならないのです。ギャンブル行動のみに集中することは十分ではないのです。問題となる人の属性にもまた注意する必要があります」とシャファーは述べる。

しかしながら、スルツクは、制御困難型の子供たちがギャンブル依存症あるいは薬物中毒になってしまうことは決して避けられないわけではない、と警告している。「3歳で行う90分の観察評価から、成人期にギャンブル依存症になるかどうかを予測できることは特筆すべきことではありますが、制御困難な3歳児がギャンブル依存症の大人になる運命にあるのではないことを理解することもまた重要です」、「彼らはただリスクが高いだけです。これは制御困難型の子供たちの多くが、実際に彼らの大半が、大人になって、何のギャンブルの問題を抱えていないことを意味しています」と彼女は述べている。

<出題された単語・熟語・文法・センテンス>

○clue 「手がかり」

○problem gambling 「問題のあるギャンブル」 gambling problem とほぼ同じ意味であるがコントロールできないようなギャンブルという意味合いがふくまれている

○drug misuse 「薬物乱用」

○track 「(道など) をたどる」

○intellectual 「知的」

○第3段落第1文 The new analysis, which was published in *psychological Science*, found that children whose temperament was deemed “undercontrolled” at age three were more than twice as likely as well-adjusted kids to have problems with gambling at age 21 and 32.主語は the new analysis, 述語動詞は found (that~) となる。「3歳のときに制御困難とみなされた子供たち」と「適応良好な子供たち」と比べている。○deem 「みなす」

○well-adjusted 「よく適応した」

- negative feeling 「否定的感情」
- negative emotion 「否定的感情」
- peer 「同じような人, 同輩, お友達」
- critical 「重要な, 批評の」
- 第5段落第2文 A key question that has long plagued addiction researchers is: Do factors like problem drug-taking or gambling lead to impulsive behavior and depression- or are people who start out feeling low and acting impulsively more vulnerable to getting hooked? 「依存症の研究者を長く悩ませてきた鍵となる大事な問題は, 薬物依存やギャンブル依存のような要因が衝動的行動, そしてうつ状態を結果的にもたらすのか, あるいは低調な気分と衝動的行動を元々抱えている人が, 依存的になってしまいやすいのか, ということである」セミコロン; (関係がある文に対して一呼吸おいてつなぐ場合に使われる) まだが主語と考える。その後2つの疑問文が続いている。Do ~ depression? と Are ~hooked?の2つの文である。○roots of addiction 「依存症の根源」, ○vulnerable 「攻撃されやすい」, ○impulsively 「衝動的に」
- involvement 「関わり」
- the division on addiction 「依存症部門」
- their elevated levels 「高い水準」
- genetic factors 「遺伝的要因」
- multiple drugs 「複数の薬物」
- 第13段落第1文 The findings underline the idea that some people are innately more vulnerable to addictions than others –not because they seek extra pleasure, but because they have a pre-existing excess of negative emotions and an inability to control them. 「その発見は, ある人によっては生まれつき他の人よりも依存症になりやすいという考えが強調されることになる。それは, 彼らがより多くの楽しみを求めるからではなく, それ以前に負の感情が過度に存在していて, それらの感情を制御する能力を有していないからである」○finding 「発見」, ○underline 「強調する」, ○extra pleasure 「他の多くの楽しみ」
- minority 「少数, 少数派」 ⇔majority 「多数, 多数派」
- anxiety disorder 「不安障害」
- solely 「単に」
- 第16段落第2文 "Clinicians must address the full spectrum of issues that tend to cluster with disordered gambling." 「臨床医は病的なギャンブルの背後にある数多くの問題の全領域に取り組まなければならないのです」○address 「取り組む」, ○spectrum 「領域」, ○cluster 「集まる」, ○disordered 「病気の」
- key player 「問題となる人」

- remarkable 「特筆すべき」
- predict 「予測する」
- observational assessment 「観察評価」

1 (A)

virtually 「ほとんど、ほぼ、事実上」という意味であるから(A) almost が一番近い。他の選択肢は precisely 「正確に、精密に」、generally, 「一般的に」、partly 「部分的に」という意味である。

2. (2)true (5)means

(2)hold true 「当てはまる、有効である」、(5)by no means (=not ~by any means) 「決して～でない」強く否定するときの表現である。例文：It is by no means easy to satisfy everyone. 「みんなを満足させることは決して容易でない」

3. 依存症の研究者を長く悩ませてきた、問題のある薬物依存やギャンブル依存などの要因が衝動的行動やうつ症状を導くのか、それとも憂鬱な気分と衝動的行動が依存的状況をもたらすのかという問題。(89字)

第5段落第2文に書かれていることを90字以内にまとめるとよい。vulnerable to getting hooked とは依存症になりやすいことを示す。key question 「重要な問題」、addiction researcher 「依存症研究者」、getting hooked 「夢中になる、とりこになる」という意味である。依存症になる人のうつの状況と衝動的行為とうつ的气氛の関係が鶏と卵の問題であると表現されている。

4. 全訳下線部参照

be likely to do 「～しそうである、～する傾向がある」、less impulse control 「衝動を抑えることができにくい」、higher levels of emotional distress were more likely 「より高水準の感情的苦悩」のところを注意して訳すとよい。develop drug problem 「薬物問題をもつことになる」という意味である。

5. (C)・(D)・(H)

9つの選択肢から本文の内容に沿ったものを3つ選択する問題である。それぞれの該当する箇所を見つけなければならない。

(A) 「スルツクは、制御困難型気質はあらゆるギャンブルにおいてもその原因となるかもしれないと思っていない」第6段落第2文に書かれている内容と異なる。○involvement in gambling 「ギャンブルへの関与」

- (B) 「シャファーがニュージーランドで行われたこの研究が重要であると考えたのは、かなり多くの長期に渡ってデータを取る縦断研究がニュージーランドですでに進行していたからである」第8段落第1文と不一致である。○quite a few 「かなり多くの」、○in progress 「進行中の」
- (C) 「シャファーは、この縦断研究が、大変若い年齢まで問題のあるギャンブルをもたらすことがありうる初期のサインを、研究者たちがたどるのに役立つと思っている」第8段落第1文と一致する。○the early signs 「その初期サイン」、○track down 「たどる」
- (D) 「研究者たちは今でも、制御困難型気質が依存行為（常習行為）と繋がっている理由についてあんまりわかっていない」第9段落第1文と一致する。
- (E) 「スルツクは、遺伝子的要因は自己制御困難とギャンブル行動とまったく関係ないと思っている」第10段落第1文と一致しない。
- (F) 「ギャンブル行動に関わっている人々は、問題のあるギャンブル行動に夢中になっている人々とめったに関係ない」第10段落第2文と合致しない。
- (G) 「現在の研究によれば、中毒によって影響される傾向がある人々は、初めから軽度の制御困難な否定的感情をもっている人々である」第13段落第1文に合致しない。○mild negative emotions 「軽度の否定的感情」
- (H) 「医師は、問題のあるギャンブル行動を治療しているとき、問題自体だけでなく、その問題の根底に以前からある属性にも注意を集中するべきである」第16段落第3・4文と一致する。○pre-existing attributes 「すでに存在している属性」、○underlie 「根底にある」
- (I) 「スルツクは、すべての制御困難な子供たちは、大人になったときに中毒者となるように運命づけられていることを突き止めた」最終段落第2～最終文と合わない。○destine 「運命付ける」、○an addict 「中毒者」

<出題された単語・熟語・文法>

- night theft 「夜勤」
- take turns 「交代でする」
- take place 「行われる、開催される、起こる」
- for better or for worse 「よかれ悪しかれ」
- by way of(=via) 「～を経由して」
- There is nothing like 「～のようなものはない、～は最高である」
- unless 「～しない限り、もし～しなければ」
- under no circumstances 「どんなことがあっても～ない」
- lead to 「(結果的に) ～になる」

- generosity 「寛大」
- manuscript 「原稿」
- side effect 「副作用」
- priority 「優先するもの」
- sensitivity 「繊細な感受性」
- quantity 「量」
- evidence 「証拠」
- range 「広がっている」
- liver cancer 「肝臓がん」
- acne 「にきび」
- tuberculosis 「結核」
- think twice 「考え直す」
- throw oneself into 「～に没頭する」
- grow 「～を栽培する」
- grow up 「成長する」
- stroke 「脳卒中」
- apologize (to A) for B 「B のことで A に詫げる」
- should have done 「～すべきだったのに」
- wisdom tooth 「親知らず」
- herbal medicine 「漢方薬」
- lose weight 「体重を減らす」
- prescription 「処方箋」
- drug misuse/ 「薬物乱用」
- clue 「手がかり」
- addictive behavior 「依存行為（常習行為）」
- intellectual 「知的」
- gender 「性別」
- assess 「評価する，みなす」
- agreeable 「感じのよい」
- critical 「重要な，批評の」
- impulsively 「衝動的に」
- vulnerable 「攻撃されやすい」
- involvement 「関わり」
- be associate with 「関わっている」
- contribution 「貢献」
- clarify 「明確にする」

- note/説明する
- underline 「強調する」
- overwhelming 「圧倒的に」
- solely 「単に」
- address 「取り組む」
- spectrum 「領域」
- cluster 「集まる」
- disordered 「病気の」
- remarkable 「特筆すべき」
- adulthood 「成人期」
- observational assessment 「観察評価」
- involvement in gambling 「ギャンブルへの関与」
- quite a few 「かなり多くの」
- in progress 「進行中の」
- track down 「たどる」
- destine 「運命付ける」
- an addict 「中毒者」